

## はだの上下水道ビジョンの意見等について

## 1. 意見

No.	頁	御意見の内容	取組みへの反映
1	P129	<p>市民意識調査の結果をみると料金が妥当の回答は全体の半数を占めている一方、高い印象をお持ちの方が1 / 4いるようです。料金改定の際に妥当と回答された方が高い印象に回ってしまうことも考えられ、市民の方に水道及び下水道料金収入がどのように活用されているか知っていただく必要があると考えます。より知ることで、現状の料金及び料金改定に対して一定の理解が得られるのではないかと考えます。</p> <p>市民の方の多くは、水道水の水源の大部分が地下水であると認識はされているようですが、県水の受水が水道料金に影響していることを知られていないのではないかと印象を持ちました。また、貴市の課題にあるとおり、貴市の財政状況があまり知られていないようで、現状・将来を知ることで、後の料金改定などに多くの賛同が得られるのではないかと考えます。そのために、貴市の課題にある効果的なPRが今まで以上に必要になると存じます。</p>	<p>お示ししたビジョンに定めた取組みの方向に基づき、また、頂いた御意見を踏まえ、今後、効果的なPRの検討・実施を進めていきたいと存じます。</p>
2	P172	<p>令和9年以降整備後50年を経過する管きよが増加傾向のようですが、今後人口減少に伴う料金収入減が想定され、課題に更新費用が必要となることあげられています。</p> <p>グラフを拝見すると年度によって発生量が多く、貴市の課題にある工事の更新費用が必要となるため、早急な工事の平準化が求められると考えます。</p>	<p>ストックマネジメント計画に基づきビジョンでの取組みの方向を定めています。</p> <p>頂いた御意見を踏まえ、今後、平準化に努めながら、計画的・効率的に更新を進めていきたいと存じます。</p>

## 2. 質問

No.	頁	御質問の内容	回答
1	P23 24	何年かごとに料金（上水道・下水道）が見直されていますが、どのような要因（施設改良の修繕費増加など）で改定されているのでしょうか。	<p>施設の維持管理や建設、改良に掛かる費用の増加が今後見込まれることが料金改定の主な要因です。また、近年では、人口減少などによる水需要の低下に伴う料金収入の減少が見込まれることも要因のひとつとなります。</p> <p>現在、料金改定については、事業計画（計画期間10年）で定めた料金算定期間（5年）ごとにその必要性を検討することとしています。（水道事業は、H23年度から、下水道事業は、H29年度から）</p>
2	P41 42	<p>近年ゲリラ豪雨や台風被害が多くなってきています。貴市の浸水対策として、大根川ポンプ場、雨水マンホールポンプ、雨水管きよがあげられていますが、現状の対策で被害は防げていると捉えてよろしいのでしょうか。</p> <p>今後浸水対策が必要になることは、想定されているのでしょうか。もし、検討中であれば、具体的な計画はされているのでしょうか。</p>	<p>現状の浸水対策としては、P159 図表 1-5 のとおり大根川ポンプ場が供用開始した平成24年度以降、床上床下浸水の被害戸数は減少しており、ここ数年は浸水被害が発生していない状況にありますので、一定の効果が出ていると評価しております。</p> <p>しかしながら、計画降雨の50mm/hを超える雨量が昔に比べ多く観測されており、今後も増えていくものと想定されますので、民間の雨水流出抑制施設（調整池）等の活用も含め、ハードとソフトの両面を組合せた対策を検討していく予定です。</p>

No.	頁	御質問の内容	回答
3	P45	地下水の浄水処理は、河川水と同じ浄水処理を行わないようですが(P18)、地下水から水道水への係る費用は、主にポンプアップの動力費と配水池の薬品費(塩素)のみでしょうか。	お見込のとおりです。
4	P45	河川から取水し浄水処理をしたときの費用と地下水の浄水費用を比べるとどのくらいの割合になるのでしょうか。	原水の取入れ並びに原水のろ過滅菌に係る設備の維持及び作業に要する費用である原水浄水費は、水源別で算出することが困難なため、お示しすることができません。
5	P135	市民意識調査では、水道水がおいしいとの回答がありますが、それは水源を地下水としている水道水が大部分を占めているからの回答でしょうか。	水道水源の約7割を地下水でまかなっていることが大きな要因と考えています。加えて、S60年に国が示した「おいしい水」の要件では、「残留塩素濃度が0.4mg/リットル以下」としているなかで、当市では、水が持つ本来のおいしさを損なわないよう、「残留塩素濃度を0.4mg/リットル以下」とすることを目標に必要最小限の処理を行うことに努めています。また、地下水は、一年を通して水温が安定しており、夏は冷たく、冬は暖かく感じやすくあります。 このことも、水道水をおいしいと感じていただけている要因の一端であると考えます。

No.	頁	御質問の内容	回答
6	P135	<p>河川を水源とする水道水は、外的要因（河川の状態状況、薬品注入量など）から味などに影響が出やすいと考えますが、地下水を水源とする水道水は、外的要因をあまり受けづらいたと考えます。ただ、地下水は土壌汚染の影響を受けやすいとも考えます。</p> <p>貴市では地下水保全事業の取組みの中で地下水位対策はされているようですが、土壌汚染について何か対策をされているのでしょうか。</p> <p>また、現在の水質と過去の水質を比較して変化はあるのでしょうか。</p>	<p>土壌汚染対策については、環境産業部の所管事業となり、地下水保全条例に基づき地下水の水質保全に関する取組みを実施しています。</p> <p>また、水道水の水質については、水道法の水質基準項目や当市で定めた水質検査項目について、適正な頻度で検査を実施し、水質の安全性について確認しており、基準に適合した水質を維持している状況にあります。</p>
7	P102	<p>水道事業の更新と下水道事業の更新の費用に差が大きいようですが、その理由に更新工事で更新距離、管の材質及び口径等が影響しているのかと存じますが、下水道事業更新で費用がかかる要因を教えてください。</p>	<p>下水道事業は、水道事業に比べて約 3 倍の投資をし、資産を有しています。これは、市単独で処理場を有していることや、汚水、雨水に分けて管きょ等を整備していることが要因です。このため、更新費用においても、水道事業に比べて費用が掛かることとなります。</p>

No.	頁	御質問の内容	回答
8	P102	水道事業は更新費用の平準化がされ、下水道事業は平準化がされていないように見えるのですが、下水道事業が平準化されない理由に何か要因があるのでしょうか？	<p>P102のグラフについては、財産台帳の耐用年数をもとにした更新需要予測であり、中長期的な計画に基づく更新費用を示したものではありません。</p> <p>今後の更新事業は、水道事業はアセットマネジメント計画、下水道事業はストックマネジメント計画に基づきできるだけ平準化を図っていく予定です。</p>
9	P28	水収支の推移で平成21年度赤字なのはなぜでしょうか？	<p>平成21年度のかん養量（収入）については、主に前年度に比べて降雨量が減ったことで、15,491 m<sup>3</sup>/日減少しています。</p> <p>また、揚水・湧出量（支出）については、主に前年度に比べて河川湧出量が増えたことで13,611 m<sup>3</sup>/日増加しています。</p> <p>この結果、揚水・湧出量（支出）が、かん養量（収入）を上回り、平成21年度の水収支が赤字となっています。</p>